

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 67人 算数 67人 理科 67人

第5学年 国語 100人 算数 100人 理科 100人

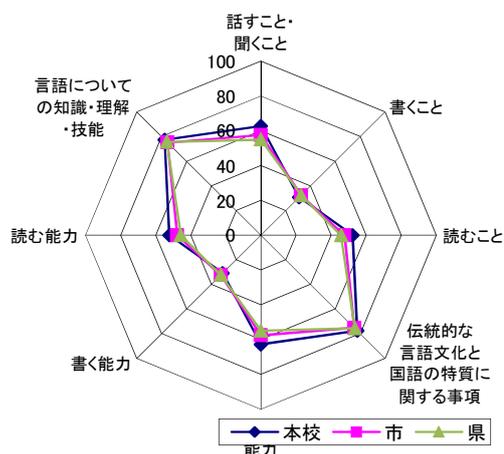
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.7	57.5	54.9
	書くこと	30.9	32.3	32.3
	読むこと	52.2	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.6	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	62.7	57.5	54.9
	書く能力	30.9	32.3	32.3
	読む能力	52.2	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	77.6	75.3	75.8



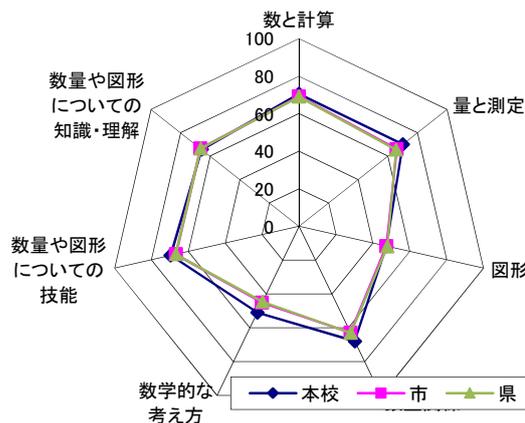
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は62.7%で、県と比べ7.8ポイント、市と比べ5.2ポイント高くなっている。 ○理由をあげながら筋道を立てて話す問題の正答率は83.8%で、県や市と比べ8ポイント程度高くなっている。 ●話の中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる記述式の問題の正答率が、36.8%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常の会話の中で、適切な言葉遣いや文末まで話すことを身に付けさせるようにする。また、話相手の意図を理解しながら、自分の考えを返すことができるように指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は30.9%で県や市と比べ同程度である。 ●メモや友達の意見を基に、報告レポートのまとめを書く問題の正答率が、県や市と同程度ではあるが、5.9%とかなり低くなっている。また、他の記述式問題でも33.8%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業の中で自分の意見を書く活動を重視する。また、複数の資料を基に自分の意見をまとめて書く活動の時間を確保し指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は52.2%で、県と比べ6.5ポイント高くなっている。 ○段落相互の関係を捉えて読む問題の正答率は51.5%で県や市と比べ8～9ポイント高くなっている。 ○文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う問題では、正答率60.3%で、県と比べ16.8ポイント、市と比べ12.8ポイント高くなっている。 ●登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える問題と、叙述や会話文を基に登場人物の性格を捉える問題の正答率は22.1%で、県や市と同程度ではあるが、低い結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の性格を読み取ったり、情景描写を読み取ったりする学習では、叙述された文章に沿った正確な解釈ができるような作業プリントを活用しながら、丁寧な指導を行う。 ・学校図書室や、地域の図書館利用を今後も呼び掛けていき、少しでも本が好きな児童を増やしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は77.6%で、県や市と比較して同程度である。 ○主語、述語の類別の問題では86.8%の正答率で県や市と比べ13ポイント程度高くなっている。 ●ローマ字による吃音の表記の理解が36.8%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字での指導時間が少ないことから、パソコン使用時のローマ字入力やキーボードゲームなどの活動を積み重ねながら習熟を図るようにする。 ・文法的な用語については、機会あるごとに指導していき確実な定着を目指す。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.6	69.2	69.1
	量と測定	70.2	66.1	65.6
	図形	47.4	47.4	48.0
	数量関係	67.9	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	50.9	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	69.6	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	65.8	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

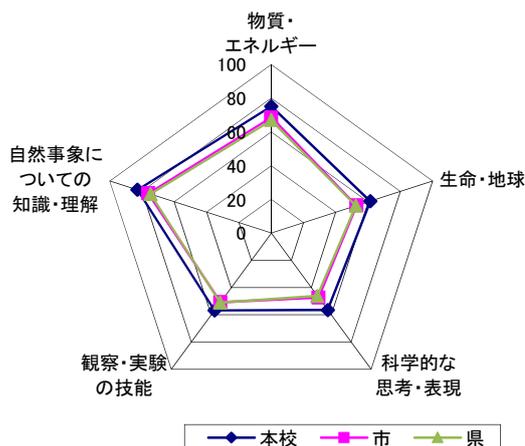
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.6%で県や市と同程度である。 ○整数一少数では86.8%, 2桁÷1桁では91.2%, 分数の大きさを図で示す問題では92.6%とよくできている。特に少数の計算では、県や市と比べ7ポイント高くなっている。 ●わり算の余りの処理の理由を説明する問題では、県や市と比べ15ポイント程度高いものの、正答率が29.4%と低くなっている。 ●合計が3000円になる乗り物の組み合わせを求める問題では、県や市と比べ7ポイント程度高いものの、36.8%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算での余りの処理の問題では、問題の意図を正確に読み取り、図に表したりする活動を経験させながら、計算のみで終わりにしない指導を継続していく。 ・長文の場面設定の問題に慣れるために、意図的に長文問題に取り組ませる。また、どうしてそう考えたのかを資料を基に説明できる力を育てていく。 ・授業においても、十分な活動の時間を確保する。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.2%で、県や市と比べやや高くなっている。 ○分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する問題では、正答率が85.3%で県や市と比べ6ポイント程度高くなっている。 ●ある時刻に間に合う1番遅い電車の発車時刻を求める問題の正答率は、県と比べ5.2ポイント高いものの、41.2%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分や秒の単位換算はできるものの、到着時刻を逆算して出発時刻を求めるような問題になると、イメージがつかめず混乱してしまう傾向がある。普段の生活で、時刻を意識した会話や問いを経験させるようにしていくことで、定着を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は47.4%で、県や市と同程度である。 ●円周上の点を通る直径を作図する問題の正答率は58.8%で県や市と比べ6ポイント程度低くなっている。 ●円を利用してかいた三角形の名前とその理由を答える問題では、県や市と同程度であるが、正答率2.9%とかなり低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円に関する用語や性質を再度復習するとともに、円の性質を利用した問題を多く経験させるようにする。また、直径や半径が無数に存在することや、円を利用して、二等辺三角形や正三角形の作図に結びつくことなどを確認し、図形を多角的に見る指導を重視していく。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は67.9%で県や市と比べ5ポイント程度高くなっている。 ○式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶ問題では、正答率が51.5%ではあるが県や市と比べ10ポイント程度高くなっている。 ○棒グラフの読み取りや除法の式を立式し答えを求める問題などでは、県や市と比べ6～9ポイント高くなっている。 ●式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶ問題では、県や市と比べ9～10ポイント高いものの、51.5%とやや低い結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の意味を理解させるために、友達の考えた式を説明したり、いろいろな式から考えを予想したりする活動を設定するようにする。課題解決においても、1つの立式で満足することなく多面的な方法に取り組む授業を経験させる。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	75.2	68.6	66.9
	生命・地球	61.3	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	56.6	47.4	46.2
	観察・実験の技能	56.8	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	82.8	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は75.2%で県と比べ8.3ポイント、市と比べ6.6ポイント高くなっている。 ○はかりの正しい操作の仕方を問う問題では、正答率94.1%と高く、県や市と比較しても10~12ポイント高くなっている。 ○複数枚の鏡で日光を反射させて水を温める方法を問う問題では、正答率が97.1%と高く、県や市と比べても5ポイント程度高くなっている。 ○磁石の極の性質を問う問題では、正答率82.4%で、県や市と比べ12ポイント以上高くなっている。 ○はさみで明かりがつかなかった理由を説明する問題では、正答率82.4%で、県や市と比べ14~16ポイント程度高くなっている。 ●回路をつくる際の安全な導線のつなぎ方を問う問題では、正答率が33.8%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も実験を重視し、いろいろな経験を積むことで、自然現象の意味付けができるように指導していく。 ・ショート回路の危険性についても、5年時の電気の学習において具体的に示すことで生きた知識となるように工夫していく。 ・学習の流れとして、学習課題→予想→検証計画→観察・実験→結果→考察→まとめ、という流れを基本に授業を展開する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.3%で、県や市と比べ9ポイント近く高くなっている。 ○昆虫の育ち方(正答率89.7%)や昆虫の口のようすと食べ物の関係(正答率86.8%)は、県や市と比べて9~11ポイント高くなっている。 ●虫眼鏡の適切な使い方を問う問題では、正答率が41.2%で市と比べても6ポイント程度低くなっている。 ●時間ごとの木の影の長さの変化を示すグラフを選択する問題の正答率は、38.2%と低くなっている。 ●記録から温度の測った場所を選び、その理由を説明する問題の正答率は16.2%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も実験を通して器具の使い方の習熟を図るようにする。特に、虫眼鏡の使い方では、個人差が大きい結果となったので留意していく。 ・身近な自然現象について話題にすることで関心を高めるようにする。またどうしてそのような現象が見られるのかなど、説明できる力をつけさせるように指導していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、不思議だなあとかなぜだろうと感ずることがある」と回答した児童の割合は91.7%と高く、県や市と比べても7～10ポイント高くなっている。学習内容に向かう気持ちと感ず取る力が高いと思われる。今後も興味関心が高まるような課題を心がけていきたい。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習で身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合が91%を超えており、学習することの意義を理解している児童が多いことがうかがえる。「授業を集中して受けている」児童の割合も95.8%と高く、県や市と比べても6ポイント程度高くなっている。

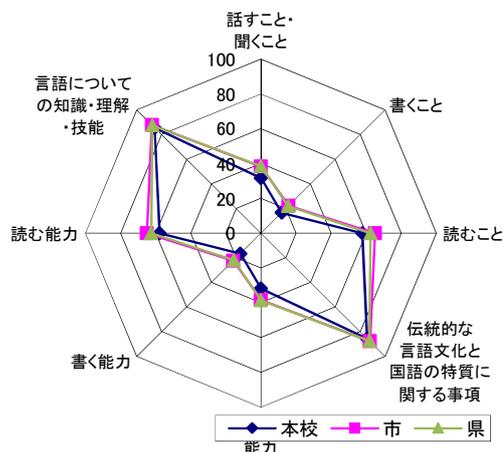
○授業において「めあてが示されている」と回答した児童の割合は、97.2%で、県や市と比べ10ポイント以上高くなっている。全校体制で、めあてから振り返りまでを意識した学習の流れを検討してきた成果が表れていると思われる。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した児童の割合は、36.1%で県や市と比べてやや低くなっている。インターネットを活用した情報収集の学習スタイルを今後も検討していく必要がある。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	31.7	38.3	38.5
	書くこと	16.7	22.3	21.9
	読むこと	57.8	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	85.6	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	31.7	38.3	38.5
	書く能力	16.7	22.3	21.9
	読む能力	57.8	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	85.6	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

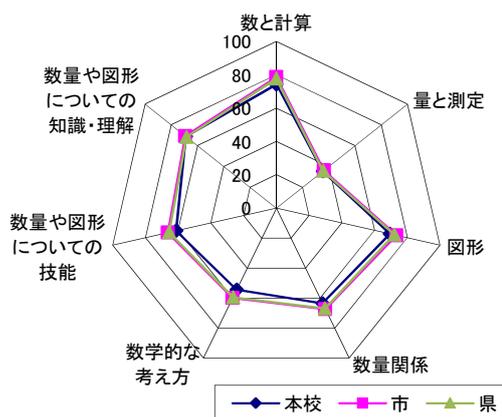
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は31.7%で、県と比べ6.8ポイント、市と比べ6.6ポイント低くなっている。 ●考えの共通点・相違点を整理しながら聞く問題の正答率が、46.0%と低くなっており、県と比べ13.4ポイント、市と比べ14.9ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話の中で、他者との考えとの共通点・相違点に注意しながら聞くことや、授業では、メモを取りながら他者の意見を聞く活動を進めていく。また、自己の考えと他者の考えを比較することで自己の考えが深まるようにしていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は16.7%で県と比べ5.2ポイント、市と比べ5.6ポイント低くなっている。 ●文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る問題の正答率が40.0%で、県と比べ5.8ポイント、市と比べ6.9ポイント低くなっている。また、メモや友達の意見を基に、リーフレットのまとめを書く問題の正答率が9.0%で、県と比べ8.0ポイント、市と比べ7.6ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業において、様々な情報から必要な事を取捨選択し、自分の意見をまとめて書くという活動を取り入れていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は57.8%で、県と比べ4.7ポイント、市と比べ7.2ポイント低くなっている。 ○中心となる語や文に注目して小見出しを付ける問題の正答率は88.0%であった。 ●書こうとすることの中心を明確にして書く問題の正答率は31.0%で、県と比べ8.4ポイント、市と比べ11.5ポイント低くなっている。また、文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う問題の正答率が24.0%で、県と比べ11.4ポイント、市と比べ14.1ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において、朝の読書の時間だけではなく、読書の時間をできるだけ設定することで、長文に触れる機会を増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は85.6%で、県や市と比較して同程度である。 ○接続語の役割を問う問題では100%の正答率で良好な結果であった。 ●漢字の書き問題において正答率が54.0%と低い項目があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的事項の反復練習を徹底していく。また、各単元ごとに小テストを取り入れることで、定着を図っていく。 ・俳句や詩などは、教科書の視写や音読を大切に、言葉のリズムを感じ取らせるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.3	78.6	77.7
	量と測定	35.5	36.3	35.7
	図形	69.5	73.3	72.1
	数量関係	63.5	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	54.4	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	61.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	69.0	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

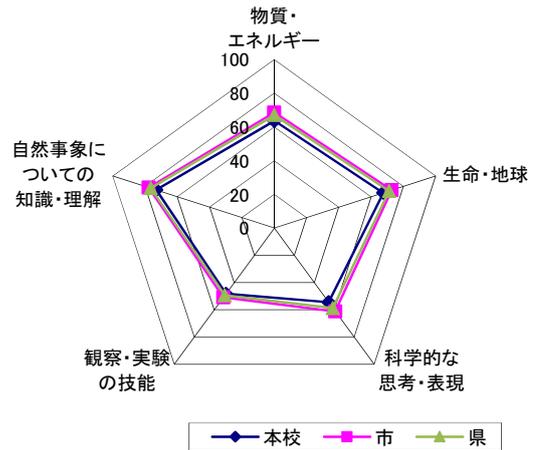
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は74.3%で、県や市と比べて同程度である。 ○四捨五入による概数の問題は、正答率が90%を超え、県や市と比べて5ポイント程度高くなっている。 ●3位数×2位数や小数×1位数の乗法の問題の正答率が59%で、県や市よりも8ポイント程度低くなっている。 ●数量関係の場面を式に表す問題の正答率は67%で、市や県と比べて10ポイント程度低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算については、計算ドリル、百ます計算などを活用し、速さや正確さを向上できるように繰り返し指導していく。 ・教科書の問題だけでなく、ドリルや教科書の巻末の発展的な問題などにも挑戦させ、計算力を高めていく。 ・問題場面を読み取るために具体物を利用した活動を取り入れたり、問題の分析の仕方を丁寧に指導したりしながら、文章問題に慣れさせていく。また、線分図の書き方や読み取り方も繰り返し指導していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は35.5%と低いが、県や市と比べて同程度である。 ○面積を違う単位で表す問題の正答率は57%だが、県や市と比べて10ポイント程度高くなっている。 ●角度の求め方を説明する問題では、正答率が17%とかなり低く、県や市と比べても8ポイント程度低くなっている。 ●複合図形の面積を求める方法を説明する問題の正答率は30%と低く課題を要するが、県や市と比べると同程度ではある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題に課題がある。解決の仕方を友達同士説明するなどの表現し伝え合う活動を取り入れていく。 ・角の大きさを測定する体験的な活動や、様々な複合図形の面積を求める問題に数多く取り組ませ、定着を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は69.5%で、県や市と比べて同程度である。 ○立方体の展開図から平行な面を求める問題の正答率は87%で、県や市と比べて同程度である。 ●平行四辺形の作図の問題の正答率は52%で、県や市よりも8ポイント程度低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定規や分度器、コンパスなどの作図に必要な基礎的スキルが正しく身に付くように個別の指導を重視する。 ・平面図形の作図が定着するように、図形の構成要素や特徴を視覚的に捉えさせ、様々な方法で作図しよりよい方法を自分なりに見つけ出せるようにする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は63.5%で、県や市と比べて同程度である。 ○変わり方調べで表を完成する問題の正答率は97%と高く、県や市と比べても5ポイント程度高い。 ●買い物の場面で式を説明する問題の正答率は36%で、県や市と比べて7ポイント低くなっている。 ●折れ線グラフの読み取りの問題では、正答率が39%で、県や市と比べて18~20ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフや折れ線グラフなど、さまざまなグラフの特徴を理解させるとともに、2つのグラフを比べてその違いを説明できるように指導していく。また、社会や理科など他教科との関連も図りながら、グラフの読み取りの力を付けていく。 ・適切に問題を処理する力や筋道立てて式や言葉、図などを使いながら説明する力を高めていけるように、いろいろな見方や考え方を取り上げ、文章問題の解き方に慣れさせていく。 ・ノート指導を大切に、自分の考えを言葉や図を使ってまとめる時間を確保する。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.6	68.6	67.0
	生命・地球	67.5	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	54.5	61.2	58.8
	観察・実験の技能	48.3	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	73.1	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は63.6%で、県や市と比べ5ポイント程度低くなっている。 ○へこんだピンポン玉が元の形にもどる理由を問う問題と光電池の働きと光の強さの関係から結果を推測する問題の正答率は40%で、県や市の正答率と比べ3～5ポイント高い。 ●金属の棒の温まり方を説明する問題と湯気と水蒸気について問う問題では正答率が約20%で県や市の正答率と比べて約10ポイント低くなっている。 ●乾電池2個を直列につないだ時の回路図を問う問題の正答率は、56%で県や市と比べ7～10ポイント低くなっている。 ●電池のつなぎ方とおもりを引き上げる時間を関係付ける問題の正答率は52%で、県や市と比べ9～11ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の状況を考えると、基本的な知識がしっかりと身に付いていないこと、学んだ知識を活用することができていないことが考えられる。特に、知識を活用して問題に取り組む問題で正答率が低い。今後の指導の重点としては、実験をしていく過程で得た知識と実験結果を関連付けながら考えたり、様々な場面においても得た知識からどんな結果になるか話し合ったりする学習を取り入れるなど、学習展開を工夫していく。 ・学習の流れとして、学習課題→予想→検証計画→観察・実験→結果→考察→まとめ、という流れを基本に授業を展開する。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は67.5%で、県や市と比べ5ポイント程度低くなっている。 ○筋肉についての問題では、正答率が92%と高い。 ●方位磁針の名称を問う問題の正答率は78%であるが、無回答率が10%と全体の中で特に高くなっている。 ●月の動き方を問う問題(正答率61%)や水蒸気について問う問題(正答率18%)では、県や市の正答率と比べて約8ポイント低くなっている。 ●冷やしたコップの周りについて水滴の正体を問う問題の正答率は75%で、県や市と比べ8～10ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題についての正答率が低い。今後も、書く活動を重視し、さまざまな事象に対して、なぜ起こるのかを捉えさせながら学習に取り組ませたり、考えを書く時間を設けたりして、自分の考えを適切に表現する力を育てていく。 ・日頃から自然現象に関する話題に触れることで関心を高めるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での生活習慣の状況では、「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」(89.7%)「毎日朝食を食べている」(95.3%)「毎日同じくらいの時刻に寝ている」(84.1%)など、落ち着いて生活している面が見られる。

○「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」と回答した児童の割合は66.4%で、市や県と比べ7ポイント程度高くなっている。課題に対して自分で解決しようとする意欲を今後も高めていけるように指導法を工夫していきたい。

○授業において「ノートにめあてとまとめを書いている」と回答した児童の割合は91.6%で、市や県と比べ6ポイント近く高くなっている。全校体制で、指導してきた成果が見られたためと思われる。

●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は90.7%、「自分はクラスの役に立っていると思う」に回答した児童の割合55.1%で、市や県と比べ2～4ポイント程度低くなっている。今後も、クラスの中での有用感を育てていけるような指導をしていきたい。

●「辞書を活用している」(64.5%)、「理由が分かるように自分の考えを書く」(73.8%)などに課題が見られ、今後も個別指導をしていく必要がある。

宇都宮市立雀宮中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・振り返りの実践	授業において、めあてを示すとともに最後に振り返りを書かせることで、目当てについての自己評価の機会を設けるようにする。	授業において「めあてが示されている」と回答した児童の割合は、4年で97.2%、5年生で91.6%と高く、市や県と比べて6～10ポイント近く高くなっている。 また「授業の最後に振り返る活動をしている」と回答した児童の割合は、4年生で70.8%、5年生で85%で、市や県と比べ10ポイント近く高くなっている。
伝え合う力の育成	友達同士で、自分の意見を分かりやすく伝え合ったり、文章で書いたりする機会を設けるようにする。 全クラスに説明するための型として、キーワードを示し、活用してきた。	「授業で、友達と話し合う活動をよく行っている」と回答した割合は約80%で5年生では、市や県と比べ5～6ポイント低くなっている。 また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合は52%～63%で市や県と比べ3～7ポイント高くなっている。
家庭学習の習慣化	自主学習を全学年で実施するとともに、高学年は授業との関連を強く意識した課題を選択させるようにしてきた。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の回答割合は、4年生が69.4%、5年生が77.66%で市や県と比べ6ポイント高くなっている。 また、「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の回答割合は、4年生が66.7%で市や県より5ポイント高く、5年生は57%で、5～6ポイント低くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
読書に関して「平日の1日当たりにどれくらいの時間、読書をしているか」の回答で、全くしないと10分未満を合わせた割合が、4年生で29.2%、5年生で39.6%と高かった。	読書の習慣化を図る。	読書週間を強化する。 保護者会等で、図書館の利用や家庭内での読書の習慣化について啓発を図る。 低学年で、図書館と連携して、学級図書を充実させる。